
消えゆく燭

仄歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消えゆく燭

【コード】

N0876P

【作者名】

仄歌

【あらすじ】

死んでしまおうと思った人の後悔と後ろ向きな感情の詩です。

時はもう止まっている
空を舞うこの身体が今更惜しく思えたよ

死にたいとか、消えたいとか、無くなりたいたいか
思いたくもないのに既に思ってたんだ
屋上で？密室で？山奥で？

場所なんてきつと要らないのかもね
だけど選んでしまう
ホントは見つかりたいんでしょ？

隠れた「死」なんて「死」じゃないよ
だってそんなの誰も気付かないから
誰も知らない場所で

誰かが知る場所あかりで
僕と言う名の燭あかりが消えてくよ

死にたい
生きたい
でも死にたい

そんな矛盾の中で生きているんだ
生と死の中間点は無いから難しんだよ
時はもう止まっている

今 翼の折れた天使の様に虚しく空を墜ちていく
遺される側とか何とか僕に関係あるの？
僕の人生、生死ぐらいは自由にさせてよ
愛とか友とかは口出ししないだよ

君たちに僕の存在価値が分かってるって言うの？

都合だらけの真実に 記号だらけの声が出る

孤独やら

劣等感やら

不平等やら

いじめやら

何もかも消してしまおう

記憶する頭さえ無ければ関係ないでしょ？

この五体も肉も骨も心も消えちゃえばいいんだよ

帰ってくるの？

戻ってくるの？

無駄に信じて疑って

もし心の欠片さえ帰ってこないなら

せめて半透明になっても存在していたかった

時はもう止まっている

空を舞うこの身体が今更惜しく思えたよ

空を舞うこの身体が今更愛しく思えたよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0876p/>

消えゆく燭

2010年12月25日18時06分発行